

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：51303

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320014

研究課題名(和文) パーソナルコンピュータによるアングッタラ・ニカーヤの語彙索引作成とテキスト再構築

研究課題名(英文) Production by Computer of Index to Anguttara-Nikaya and Recompile Its Text

研究代表者

逢坂 雄美 (OUSAKA, YUMI)

仙台高等専門学校・総合科学系・名誉教授

研究者番号：30152036

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,300,000円、(間接経費) 2,490,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主題である『アングッタラ・ニカーヤ』に関する語彙索引は現在印刷中であり、2014年前半にパーリ文献協会(PTS, 英国)より発行する。パーリ語で書かれた原始仏教経典は、5つの大きな部(ニカーヤ)に分類されているが、本仏典は、『ディーガ・ニカーヤ』、『マッジマ・ニカーヤ』、『サンユッタ・ニカーヤ』に次ぐ第4番目のニカーヤで、漢訳仏典の『増一阿含経』にほぼ対応している。我々はこれで主要ニカーヤの索引全部を作成・出版したことになり、パーリ語辞書編集の研究・仏教学の学術的基礎研究・批判的校訂本作成に重んじて多大な寄与をすることになる。

研究成果の概要(英文)：The Pali Text Society (PTS, Bristol) has systematically published many important Pali canonical texts in early Buddhism so far. However, we could say that any complete word index have not yet been produced to almost all such texts. Even if some index was compiled to the text, it was, as usual, very incorrect and contained many errors. Thus many scholars have desired the complete word index for the study of the Buddhism.

By using a personal computer we have already published the word indexes to the Digha-nikaya (1997), Majjhima-nikaya (2006) and Samyutta-nikaya (2010) from PTS, where these canonical texts, including the Anguttara-nikaya (AN) consist of the very important canons of early Buddhism, i.e., 'nikaya'. With respect to compilation of the index to AN, this index is in print now and will be published from PTS in the first half of 2014.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学，印度哲学・仏教学

キーワード：アングッタラ・ニカーヤ 語彙索引作成 初期仏教 パーリ語文献 パーリ文献協会

1. 研究開始当初の背景

中期インド・アリアン語で書かれた古文獻は、初期仏典(パーリ語)を初め、ジャイナ教聖典(アルダ・マガダ語)や大乘經典(仏教混淆梵語)等がその代表例に挙げられるように、世界文化の源流の一つであり、貴重な文化遺産である。初期仏教やジャイナ教は、反バラモンの立場を主張する沙門の共同体から輩出したため、教団組織、実践倫理、教理の形態に類似点が多く、両教の比較研究が不可欠である。

しかしながら、これら原典テキストは解決すべき文献学の問題を数多く残しているものばかりである。これら古層聖典を研究するに当たっては、まず厳密な校訂本が必要となり、その校訂本に基づいて翻訳がなされ、内容の検討をすることが当然の手続きとなる。翻訳をする場合、文法はもとより、語彙、詩脚、構文論等の組織的研究が要求される。しかし、初期のジャイナ教聖典にしる、仏典にしる、校訂本や翻訳において、現段階では解決すべき多くの問題を残している。

・研究の全体構想:

我々のグループでは、1990年代初頭から語彙、構文論等の組織的研究にパーソナルコンピュータが適していることを認識し、中期インド・アリアン語研究の為に逢坂等を中心として学際的な中核的研究グループ(図参照)を立ち上げ、テーマごとに適切な外部研究機関と連携し、構成員の密接な共同研究の下に、中期インド・アリアン語古文獻を系統的に解析できる特殊フォント・エディタ・諸解析ツール等を開発した。我々の確立した有用な独自手法を活用して、第1次基礎資料(語彙及び詩脚の索引)を作成し、パーリ語辞書編集の研究・学術的基礎研究に対して寄与すること、仏教学研究を格段に発展させることに資すること、を目標としている。図の海外研究協力者等は、初期仏教に関する研究の世界的な中心機関であるパーリ文献協会(PTS, 英国)に所属している。

・本研究課題の文献『アングッタラ・ニカーヤ』の重要性:

パーリ語で書かれた原始仏教經典は、5つの大きな部(ニカーヤ)に分類されているが、『アングッタラ・ニカーヤ』は、『デーガ・ニカーヤ』、『マッジマ・ニカーヤ』、『サンユッタ・ニカーヤ』に次ぐ第4番目のニカーヤで、漢訳仏典の『増一阿含經』にほぼ対応している。我々はPTSより、第1~3のニカーヤの索引を既に出版しており(又は印刷中)、研究に提供している。『アングッタラ・ニカーヤ』は11章に編集され、2198の短い經からなる。原典テキストはPTSより5巻本で出版され、第6巻は簡便な語彙索引となっている。仏典ではしばしば、三界・四諦・五蘊・五位七十五法のように、名数(法数)を挙げて教義上の重要項目を纏めることがあ

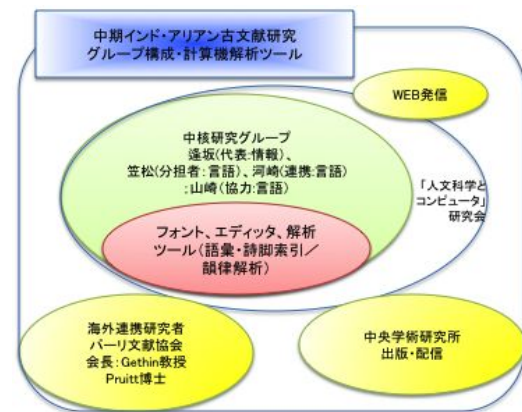
る。『アングッタラ・ニカーヤ』は、「四種の人」「七種の財産」などの数に因んだ多様な論題・教説を一法から十一法までの昇順で整理し収録したものであり、パーリ三蔵の形成史上重要な位置を占めていると同時に、名数で整理を行うことは後のアビダルマ文献の先駆形態の重要例である。また、教義に係りて説かれる説話や「女性の8つの義務」などの風俗には、文化史的な研究意義もある。

2. 研究の目的

本研究課題は、初期仏教のパーリ語文献『アングッタラ・ニカーヤ』に関する研究である。①我々の開発したパーリ語テキストの計算機解析ツールとPTSの作成した仏教聖典の電子化テキストを融合的に活用して、完全な語彙索引を作成し、最終年度にPTSから迅速に出版公表する。②得られた正確な電子化テキストを新校訂本作成の為にPTSに提供する。③語彙の逆順索引を作成して、PTSの許可のもとに我々のホームページに掲載する(ウェブ発信)。

3. 研究の方法

当該研究では、精密な電子化テキスト作成が最も労力を要する部分である。幸い、PTSが『アングッタラ・ニカーヤ』の電子化テキストを作成しており、そのテキストを利用できることが研究グループ構成の一つの要因である(図参照)。



次に、このテキストをそのままでは索引作成に使用できず、言語学知識に基づく厳密な校正を必要とする。本研究では、各巻ごとに正確な電子化テキストを作成して、その語彙の索引を作成する。可能な限り正確な電子化テキストの作成は、索引結果によるチェックをしながら行われる。正確な索引が作成された段階で、必然的に正確な電子化テキストを作成できる。各巻の索引を完成させた後で、情報処理ツールを使って1冊の索引にまとめる。平成23年度では第2巻目までの索引完成を目指す。平成24年度では第3巻と4巻目の索引完成を目指す。最後の平成25年度には残り、第5巻目の索引を完成させる。その後、

全巻を通しての整合性に注意しながら、5冊の索引を1冊に合本し、PTSより出版する。効率的な新校訂本作成の為、各巻の正確な電子化テキスト完成後毎にPTSに提供する。

4. 研究成果

これまで、当該古文献を含め、初期仏教文献の重要な原典テキストは、PTSより計画的に発行されて、研究者に多大の便宜を供してきた。しかし、文献学上多くの問題点を含んでおり、再校訂することが急務であることがNorman教授(ケンブリッジ大学名誉教授)等により指摘されている。同教授は種々の学術誌の中で、原典テキストの編纂方法が確立されていなかったため、編纂者が東洋版に依存して読みを確立してしまったこと、再刷される時に校正されること無く印刷されてしまったものが多いことを、指摘している【"The present states of Pali studies, and future tasks", *Collected PapersVI*, (Oxford) 1996, pp.77-78】。これらの原典テキストには語彙索引が殆ど付されていないのが現実であり、付されている場合でも不完全で誤りが多いこと等のために、辞書編纂等の重要な研究の完成が遅れており、完全な語彙索引が研究者に切望されている。

本事業は、これまでの一連の研究の集大成としての位置づけの他に、当該研究体制・手法等の次世代継承を図ることに意義がある。そのために、平成22年度を最終年度とする科研費研究において若手研究者との連携を開始した。この連携により目的とした索引作成・出版は勿論のこととして、もう一つの目的としていた校訂本作成に必要な言語情報をPTSに提供できたことから見て、手法継承目的の連携は極めて有効であると予想される。

我々は当初Norman教授(元PTS会長)、Cone博士(ケンブリッジ大学)、次いで現PTS会長のGethin教授、Pruitt博士と共同で、パーリ聖典の最重要聖典とみなされている『ダンマパダ』、『ヴィナヤ』から初めて、『ディーガ・ニカーヤ』、『ジャータカ』、『ヴィスuddhimagg』、『マッジマ・ニカーヤ』、『サンユッタ・ニカーヤ』のテキストの誤植と誤りを正し、コンピュータによって語彙索引を作成し、PTSから出版した。Cone博士は現在、PTSの一大事業であるパーリ語の辞書を編纂中(第1、2巻が既に出版され、現在第3巻を準備中で、第4巻で完結予定)で、これらのテキストを選抜したのは、PTSの意向が強く反映されている。

本研究の主題とする『アングッタラ・ニカーヤ』に関する語彙索引作成により、PTSより刊行されたパーリ語関連聖典の最重要テキストの索引作成が完了することになり、パーリ語辞書編集の研究・仏教学の学術的基礎

研究・批判的校訂本作成に重に対して多大な寄与をすることになる。パーリ語は様々な音韻現象が多数観察される、“言語学の実験場”でもある。網羅的な全語彙索引は、印欧語比較文学の分野にも多大な貢献すると期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

笠松直、西康友、逢坂雄美「中期インド・アーリヤ語聖典のパーソナルコンピュータによる自動解析 III ジャバによる実行形式 Jar ファイル」『中央学術研究所紀要』(中央学術研究所)査読無し、2012、第41号、35-52

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 5 件)

1. S. KASAMATSU, Y. KAWASAKI and Y. OUSAKA, *Index to the Anguttara-nikāya*. The Pali Text Society, Bristol 2014 (in print)
2. S. KASAMATSU, Y. NISHI, Y. KAWASAKI and Y. OUSAKA, *Index to the Milindapañha*. The Pali Text Society, Bristol 2013 (ISBN-10 0860135004, 2013, Bristol), 311 頁
3. *Kaccāyana and Kaccāyanavutti*. Edited by OLE HOLTEN PIND with an index prepared by Dr S. KASAMATSU and Professor Y. OUSAKA. The Pali Text Society (ISBN-10 0860134903, 2013, Bristol), 326 頁 [担当箇所 227 - 326 頁]
4. Yutaka KAWASAKI, Sunao KASAMATSU and Yumi OUSAKA, *Parisistaparvan. Pāda Index and Reverse Pāda Index*. Chuo Academic Research Institute Tokyo 2012.11. [Philologica Asiatica Monograph Series 28], 380 頁
5. Yasutomo NISHI, Sunao KASAMATSU and Yumi OUSAKA, *Saddharmapundarīka. Pāda Index and Reverse Pada Index*. Chuo Academic Research Institute Tokyo 2011. [Philologica Asiatica Monograph Series 27], 203 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://hirose.sendai-nct.ac.jp/~ousaka/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

逢坂雄美 (OUSAKA YUMI)

仙台高等専門学校・総合科学系・名誉教授

研究者番号：30152036

(2)研究分担者

笠松直 (KASAMATSU SUNAO)

仙台高等専門学校・総合科学系・准教授

研究者番号：40510558